

岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画について (読書バリアフリー計画)

1 計画の基本的事項

視覚障害等(視覚障害、読字に困難がある発達障害、寝たきりや上肢に障害がある等の理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難である身体障害)のある人の読書環境の整備を通じ、障害の有無に関わらず、県民が等しく、文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会及び誰もが生き生き輝く共生社会の実現に寄与することを目的とする、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律第8条第1項に基づく本県の計画である。(計画期間：令和4年度～令和7年度)

2 課題

- (1) 視覚障害等のある人が利用しやすい書籍等の収集及び製作に携わる人材の確保
 - ・利用しやすい書籍等の発行数が一般書籍と比べて少ない
 - ・利用しやすい書籍等の製作に携わる人材(点訳者や音訳者)が不足
- (2) 読書支援機器等の周知や使用方法の習得
 - ・読書支援機器を使用する読書形態や使用方法の周知
 - ・読書支援機器の購入負担
- (3) 図書館サービスの充実、周知
 - ・県立図書館、県視覚障害者センター、サピエ図書館等における視覚障害等のある人に向けたサービスの利用が少ない。

3 施策の方向性

- (1) 視覚障害等のある人が利用しやすい書籍等の充実及び製作に携わる人材の育成
利用しやすい書籍等の収集及び製作や、製作した書籍等のデータの共有化とともに、点訳者や音訳者の養成を行う。
〈主な取組〉
 - ・点字図書、音訳図書(録音図書)、デイジー図書等の収集及び製作
 - ・サピエ図書館への製作した点字図書、音訳図書等のデータ提供
 - ・県立図書館、県視覚障害者センター、その他の公立図書館、学校図書館、サピエ図書館間での利用しやすい書籍等の相互貸出
 - ・点訳者や音訳者の養成及びスキルアップ

(2) 読書を支援する環境の充実

図書館施設のバリアフリー化、読書支援機器等の整備、視覚障害等のある人へのサービスの充実とともに、読書支援機器等の給付制度や使用方法の周知を行い、ハード・ソフトの両面から読書を支援する環境の充実を図る。

〈主な取組〉

- ・図書館施設のバリアフリー化、対面朗読室や読書支援機器の整備
- ・特別な支援を必要とする児童生徒等の利用者の実態に応じた選書や環境の工夫、機器の活用等
- ・利用しやすい電子書籍等を利用するための読書支援機器及び音声パソコンの利用方法や入手方法の案内
- ・読書支援機器等の給付（市町村における日常生活用具給付等事業）への継続支援

(3) 図書館サービスの情報発信

県立図書館、県視覚障害者センター、サピエ図書館等のサービス内容や利用方法等について、広く県民に向けてあらゆる機会を通じて周知する。

〈主な取組〉

- ・県内の公立図書館や関係機関等との連携による全県的に効果的なサービスの展開
- ・点字図書や音訳図書の製作過程や視覚障害等のある人の多様な読書手段等について、県民の興味や関心を抱く機会の創出
- ・かかりつけ医などの身近な医療機関等を通じた情報発信

4 推進方針

本計画について、市町村をはじめ、様々な関係者に周知等を図るとともに、市町村の計画策定に向けて、必要な情報収集及びその提供を行う。

本計画の進行管理は、次の指標の進捗等を参考に行う。

〈指 標〉

項目	現況数値	目標数値
サピエ会員(個人会員)登録者数	297人 (R3(2021)年度)	400人 (R7(2025)年度)
県視覚障害者センターで点訳奉仕者、朗読奉仕者の養成研修を受講修了した人の数	点訳3人/年※ 朗読8人/年※ (R2(2020)年度) ※H28(2016)～R2(2020)平均値	点訳15人 朗読35人 (R3～R7) (2021～2025年度)
意思疎通支援者の県登録者数 (盲ろう者向け通訳・介助員)	84人 (R2(2020)年度)	90人 (R7(2025)年度)
県立図書館でのサピエ図書館データのダウンロード点数	4,900点/年 (R2(2020)年度)	5,000点/年以上 (R7(2025)年度)
県立図書館での障害者向け資料貸出冊数	5,608冊/年 (R2(2020)年度)	6,000冊/年以上 (R7(2025)年度)